

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校 学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・「話す力」「書く力」「表現する力」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく論理的に伝えることができる生徒 ・「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 ・「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 ・進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 ・生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 ・生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 ・探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し、仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇学校経営・組織運営		
4 現状の分析	○一人一人のよさや可能性を伸ばすために熱心に学習指導・生徒指導に取り組んでいる教職員が多い。 ○探究活動に力を入れており生徒は様々な地域貢献活動に参加している。 ▲総合的な探究の時間の取組内容について再考が必要。 ▲登校への積極性が減少している。		
5 学校の抱える課題	◇中規模多学科校に起因する教育リソースの不足		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・地域とともに魅力ある高校づくりを進める		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) コミュニティ・スクールの機能を充実させることで、教職員・地域住民・保護者による目標・ビジョンの共有を図り、学校関係者が持つ専門性やネットワークを生かした学校運営を行います。 (2) 「普通科」、「理数科」それぞれの特色ある教育課程により、地域人材や教育資源を活用した魅力ある教育活動に取り組みます。 (3) ふるさと教育の推進と飛騨市学園構想により課題解決に取り組む学習を充実させます。	(1) (3) 学校運営協議会委員、保護者による評価 (2) 中学生の進路希望調査、1日入学参加者数、生徒・保護者による学校評価		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・教育目標実現のための、学校関係者が持つ専門性やネットワークを生かした学校運営 ・「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」指定校としての、地域人材の有効活用と課題解決型学習の開発 ・「理数教育フラッグシップ推進事業」の推進	①学校関係者の専門性を生かした学校運営ができたか。 ②地域とともに魅力ある高校づくりを進めたか。 ③理数科の特色を伸ばしたか	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
12 成果・課題	○地元にある大学の研究所や岐阜大学の準教授の先生方(理数探究発表会やYCK報告会)、各方面で活躍する地域の方々(大人と語る会、課外活動プログラム等)、飛騨市(市長講座、魅力ある高校助成金)等の協力を得て大変有意義な学習活動が実施出来た。 ○同窓会や育友会役員の協力を得て探究学習中間発表会が開催でき、生徒が進める探究学習に対し役員の専門性を生かした助言を得て、改善点を明確化出来た。 ▲学校の魅力発信の方法については、今後も検討が必要である。		総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案	地域連携については、来年度も各方面の御協力を得てより豊かなものにしたい。学校の魅力発信の方法について、さらに工夫を重ねたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月7日

【意見・要望・評価等】
・行事等、学校の教育活動が外へ開かれてきた感がある。今後も継続・発展していただきたい。
・先生方にも地域を知っていただく機会を作ってもらい、いろんな産業や、飛騨市内でも様々な地域ごとの課題があることを生徒へ伝えてもらいたい。
・不足部分を精査し「地域と共に魅力ある高校づくり」を旗印に、出来る支援の手立てを模索したい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・「話す力」「書く力」「表現する力」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく論理的に伝えることができる生徒 ・「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 ・「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 ・進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 ・生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 ・生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 ・探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し、仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導		
4 現状の分析	○ICTを活用した教育活動が行えている。 ▲総合的な探究の時間の意義を多くの生徒たちが感じていない。		
5 学校の抱える課題	◇授業内で生徒に自らの適性やキャリアについて考えさせる機会を増やす。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・授業改善と学習指導の充実に努め、主体的・協働的に取り組む態度を育てる		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 基礎的基本的な知識・技能の習得を図るとともに、アクティブラーニングを推進し、思考力、判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て新しい価値を創造する力を身に付けさせる。 (2) 少人数学級や習熟度別授業、進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援を行う。 (3) 一人一台端末やMetaMoJi Classroomを活用した学習活動を充実させる中で公開授業、研究授業を計画的に行い、生徒が主体的・協働的に取り組む環境を多く作る。	(1) 生徒による授業アンケート、教員相互の評価 (2) (3) 授業アンケート、卒業生アンケートの評価 生徒・保護者等による学校評価		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評 価	
・研究授業・公開授業による指導力向上 ・アンケート調査による学習活動の点検と改善 ・初期指導による高校での学習活動の定着 ・各教科の授業改善 (ICT機器活用等)	①授業は改善しているか ②家庭学習は確保されているか ③個別指導は効果的か ④生徒は満足しているか	A (B) C D A B (C) D A (B) C D (A) B C D	
12 成果・課題	○アンケート調査の結果から授業を通じて自らの適性やキャリアについて掘り下げて考える時間が確保できていることがわかる。学びへの意欲と基礎学力の向上につなげたい。 ○アンケート調査の結果から学習評価についての理解も深まっていることがわかる。今後も学習意欲が向上するような評価を続けていきたい。 ▲学習習慣が定着せず基礎学力に課題を抱える生徒に対する対応について検討していく必要がある。		総 合 評 価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案			
・個々の生徒の学力や個性を考慮した学習支援について、教員間でより議論を深め、共通認識を持って実施する。 ・授業アンケートや教員同士の授業見学、研究授業の機会を利用しながら、学習意欲を向上させるための授業改善に取り組む。 ・生徒に家庭学習の重要性をデータ等で示すとともに、学習時間の確保について具体的にアドバイスをを行い、生徒の学力の状況、学習の現状について保護者等ともより情報共有を図っていく。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月7日

【意見・要望・評価等】
・ICT教育の推進にさらに取り組んで欲しい。 ・生徒自ら関心を持ちアクティブに学ぶ教科の授業を増やしてもらいたい。 ・少人数での教育や個別対応は必要である。 ・学力に課題を抱える生徒のケアについての工夫を重ねてもらいたい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・「話す力」「書く力」「表現する力」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく論理的に伝えることができる生徒 ・「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 ・「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 ・進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 ・生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 ・生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 ・探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し、仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3	評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）		
4	現状の分析	○日常的な相談体制で、情報共有し組織として対応している。 ▲個別対応の必要性の増加		
5	学校の抱える課題	◇人間関係力と、自己解決力の低下		
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
		(1) 「生徒指導の指針」「いじめ防止基本方針」をもとに指導の共通理解、共通行動を行い、生徒の自律心、判断力、責任感を育む。 (2) 生徒の状況や情報を常に把握し、職員間で情報を共有しながら日常的な教育相談活動と生徒支援を行う。 (3) 学校生活を通して集団の一員としての自覚と規範意識を高め、他人や社会との関係性を尊重できる個人を育む。		(1) 生徒・保護者・職員への生活安全調査（年3回） (2) いじめ防止等対策検討会議での評価（弁護士・SC・地域代表・育友会長他） (3) 生徒・保護者による学校評価、ネット・SNSによるトラブルの増減等
9	取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評価
		・生活安全調査、いじめアンケート(年3回)、心のアンケート(年4回)、学校安心安全チェック(毎月)の実施。いじめ防止等対策検討会議実施。 ・日常的教育相談活動と生活指導（面談、登校指導、情報モラル指導）の実施。学年会・職員会議における配慮の必要な生徒の情報交換。 ・スクールカウンセラーの活用。 ・SNSトラブル回避の啓蒙活動・人権LHR	①いじめ問題は起きていても不登校重大事案は起きていないか。 ②生活安全調査やアンケート等の結果を学年会/職員会議で共有できたか。 ③生徒、保護者対象の学校評価数値は昨年度より改善したか。問題行動の件数の増減。	A B C D A B C D A B C D
12	成果・課題	○問題行動は少数である。いじめ問題は、方針に則り、組織として対応した。些細なトラブルと思われる事案に対しても、学年会等と情報共有し、迅速に対応した。 ○日常的教育相談で、対応策を共有し、一人一人に寄り添った対応をした。 ▲心の問題を抱える生徒が多数相談した。スクールカウンセラーへの相談は保護者も含めて希望は多く、規定の回数では不足した。 ▲スマホの使い方、特にSNSに起因する問題は依然としてあり、機会を捉えて何度も啓発し、予防活動に力を入れる必要がある。		総合評価 A B C D
13	来年度に向けての改善方策案 ・チーム学校として情報共有を密にする。生徒の困り感や悩みに寄り添い、問題の早期発見、早期対応に心がける。 ・スマホの使い方は、あらゆる機会を捉えて啓発していく。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月7日

【意見・要望・評価等】
・生徒がすぐに相談ができる環境が整っていることは評価できる。
・今後も必要とときにいつでも相談ができる体制が継続的に構築していくことが望まれる。
・情報化社会におけるコンプライアンス遵守・モラル指導の実践の充実が必要である。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・「話す力」「書く力」「表現する力」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく論理的に伝えることができる生徒 ・「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 ・「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 ・進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 ・生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 ・生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 ・探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し、仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導		
4 現状の分析	○生徒に対して情報の提供ができています。 ▲保護者が必要とする進路情報の提供や、生徒の進路希望に沿った適切な支援が必要である。		
5 学校の抱える課題	◇生徒の進路希望に沿った支援の充実		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒が主体的に将来にわたる進路を設計できるように計画的・組織的に支援する。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒が自己の適性や能力を理解し、生きがいをもってライフプランニングができるよう望ましい職業観や人生観を育成する。 (2) 高大接続改革に対応し、3年間を見通した進路指導計画(補習、模試面接、小論文指導等)を確立して生徒の進路実現を支援する。 (3) 生徒、保護者、職員にとって必要な進路情報を提供するとともに個に応じた支援を行う。	①進路希望調査の結果や説明会等での振り返り内容 ②共通テスト出願者数、大学合格実績、公務員合格率等 ③各種調査及び模擬試験等の結果		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・総合的な探究の時間や課外活動等を通し自身のあり方や生き方を考え、進路希望を具体化させる。 ・1年次から補習や模試、小論文指導を行い、3年次の面接・小論文指導では個別指導を行う。 ・進路説明会や分野別説明会・企業説明会などを開催し、進路希望の選択・実現を支援する。	①早い時期に進路目標を設定できたか。 ②学力が向上し論理的に自分の意見を述べる力がついたか。 ③希望する進路を選択し、実現できたか。	A ⑤ C D A B ③ D A ⑤ C D	
12 成果・課題	○進路指導部、学年、関係職員と連携しながら支援ができた。また、具体的な進路目標を定めるための進路行事や説明会を実施することができた。 ▲文章で表現することの苦手な生徒が多いため、出願や受験に必要な作文や小論文対策に向けた長期的な指導が必要である。 ▲進路目標を立てそれに向かって主体的に動くことが難しい生徒への支援について考えていく必要がある。		総合評価 A ⑤ C D
13 来年度に向けての改善方策案	・学年会や保護者と連携し、個に応じた支援を行いながら主体性や表現する力を身につけさせる。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月7日

【意見・要望・評価等】
・来年度から共通テストで情報Ⅰが入ってくるので、対応を考えていってほしい。
・高い志を持たせるように対応願いたい。
・高校時代にいろいろなことにチャレンジし経験する中で目的が明確に出来ていくということもあるので是非与えられる学びではなくて、自分から求めていく学びをたくさん作っていただきたい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・「話す力」「書く力」「表現する力」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく論理的に伝えることができる生徒 ・「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 ・「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 ・進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 ・生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 ・生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 ・探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し、仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3	評価する領域・分野	◇特別活動		
4	現状の分析	▲生徒間でトラブル等が起こった際、自身で解決することが出来ず、大きな問題へと発展するケースが増加している。		
5	学校の抱える課題	◇好ましい人間関係を構築するための機会や機会の提供、及び生徒へのサポート		
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・互いに支え合う関係を構築し、好ましい人間関係を作り上げ、豊かな人間性と思いやりのある行動力を育てる。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) ホームルーム活動を中心に生徒会活動、部活動、委員会活動等の諸活動を通じ、生徒たちが協働し、集団の中で望ましい人間関係を構築することを支援する。 (2) 生徒が熱意を持ち、積極的に柏葉祭等の生徒会行事に取り組み、地域や社会、他者へ目を向け、自ら考え行動できる態度を育成する。 (3) 生徒が目的を持ち、自主的・自発的に部活動に参加できる環境を整備する。		(1) (2) 球技大会及び柏葉祭等の生徒会行事への取り組み状況 (3) 部活動加入率、参加・活動状況、大会成績等		
9	取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評 価
・様々な生徒会行事に向けて執行部等諸会議を開催 ・広報活動により校外へ積極的に情報を提供 ・部紹介、伝達表彰を実施するとともに、部活動費及び備品費を適正に配分し、活動環境を整備		①球技大会・柏葉祭等の諸行事に達成感を味わわせることができたか。	Ⓐ B C D	
		②校内外で行事への取り組みの理解や支持を得ることができたか。	A Ⓑ C D	
		③目的意識を持って、積極的に部活動に参加させることができたか。	A Ⓑ C D	
12 成果・課題	○ここ数年で、生徒会役員を希望する生徒や、活動に対してやりがいを持って取り組む生徒が増加した。また、文化祭、球技大会などの定例行事以外で生徒発案の企画に取り組むなど生徒会活動(全校縦割りLHR,公式Instagramの開設,ポロシャツの作成等)が活性化している。 ○部活動への加入率が87%と高い状態を維持できており様々な部活動で成果を上げている。(サッカー部：地区大会優勝 剣道部：県新人大会個人3位、科学部：R6年度全国大会出場権獲得) ▲生徒会執行部の主体的な活動を全校生徒に広げていくことが今後の課題にあげられる。		総 合 評 価 A Ⓑ C D	
13	来年度に向けての改善方策案 今年度引き続き、全校生徒が自身の学校生活等について知ったり、考えたりすることが出来る機会を充実化させる。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月7日

【意見・要望・評価等】
・生徒の自治を大切に育てようとする学校体制があり、生徒は主体性のみならず、多方面への配慮もあり、素晴らしい成長がある。
・生徒主体の行事の担当(生徒)を分担し、全員が創り上げる機会を与えてはどうか。(「やってみたいが・・・」と思っている生徒を生かせる環境作り)

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・「話す力」「書く力」「表現する力」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく論理的に伝えることができる生徒 ・「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 ・「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 ・進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 ・生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 ・生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 ・探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し、仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3	評価する領域・分野	◇保健管理・安全管理		
4	現状の分析	○清掃に関しては、今年度管理棟工事が入り校舎全体が綺麗になった事もあり、逆に隅等の汚れが目立つようになった。 ○健康管理に関しては、養護教諭を中心に常に配慮できている。 ○安全・衛生面では事務部との連携により、早めの対応ができた。 ○防災に関しては、2学年を中心に危機管理意識が向上しつつある。		
5	学校の抱える課題	◇生徒及び職員の環境美化意識並びに安全に対する意識向上。 ◇学校全体による、防災・減災意識向上のための具体的な取り組み。		
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・自らが健康で安全な生活を営む能力や態度を育て、環境美化を通じて豊かな心を育成する。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)健康診断や防災教育を通じて、自らが健康で安全な生活を営む能力・態度の育成を図る (2)日々の清掃活動、マナー教育(トイレ等公共施設の利用)を通じて、豊かな心の育成を図る。			(1)健康診断受診勧告者受診率、生徒委員会の取り組み状況、減災力テスト実施前後比較、非常変災時帰宅確認報告率、生徒・職員による安全点検、防災士取得数 (2)生徒委員会・職員による環境・清掃状況チェック	
9	取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評価
・生徒個人への受診勧告、健康相談、保健だよりの発行やポスター掲示等での健康面の啓発活動。 ・保健委員による感染症予防に対する換気活動・換気状況チェック。 ・職員へのアレルギー対応研修、日常生活における事故防止の事前指導。 ・月1回の職員による安全点検、非構造部材の日常点検。職員・生徒による教室環境衛生点検、清掃点検(毎月)。環境委員によるゴミの分別収集と季節環境整備(草むしり、落葉清掃)、トイレ使用マナーの励行、環境衛生日常点検での教室環境への整備意識づけ。保健委員によるトイレ環境衛生点検。 ・命を守る訓練(4回)。防災リーダー「防災について考えよう(2学年対象)」実施。 ・災害時備蓄品の整備。災害対策マニュアル全生徒職員配布。			①生徒の健康管理	A (B) C D
			②事故防止	A (B) C D
			③安全管理、環境整備	A (B) C D
			④防災	A (B) C D
12 成果・課題	○安全点検や非構造部材の日常点検により、事前に危険箇所等への迅速な対応ができた。 ○月1回の保健厚生部による清掃チェックにより、職員・生徒の清掃活動意識が向上した。 ○防災リーダー・防災係を中心に、飛騨市役所と連携して防災教育(災害図上訓練)を行った。その結果「減災力テスト」の数値も伸びた。防災士資格取得を目指す(昨年度6名合格)。 ○命を守る訓練(地震、火災、土砂災害)を4回実施、帰宅確認予行も行い防災意識を高めた。 ▲防災タウンウォッチングに参加した。防災に対して地域との繋がりを深める必要がある。			総合評価 A (B) C D
13	来年度に向けての改善方策案 ・防災教育をより一層活性化するために、日常から防災に対する意識向上を促す指導が必要である。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月7日

【意見・要望・評価等】
・防災リーダーを中心に行った防災教育に対しては高評価であった。防災士資格取得を推奨しているが、更に防災士会との連携を図りながら防災意識を高める活動も検討したらどうか、また、感染症予防対策については、健全な学習環境の中で学校教育活動をいかに行うか、ガイドラインの仕切り直しをする必要があるとの御意見を頂いた。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・「話す力」「書く力」「表現する力」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく論理的に伝えることができる生徒 ・「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 ・「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 ・進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 ・生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 ・生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 ・探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し、仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇キャリア教育		
4 現状の分析	○学校と地域が力を持ち寄り、「みんなの学び=YCKプロジェクト」を組織的に推進できた。 ▲3年生の進路決定時に活用できるキャリアパスポート（ポートフォリオ）がない。		
5 学校の抱える課題	◇YCKプロジェクトを進路決定に有効活用できるようにする。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	「地域に根付いた地域に愛される地域に貢献できる学校づくり」を通して、課題解決能力を育てる		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科ESDを含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」の活動を通して、生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育てる。 (2) 「総合的な探究の時間」を基軸に、生徒の社会的・職業的自立を促すとともに、社会の中で自らの役割を主体的に果たそうとする態度を育てる。	(1) YCKプロジェクトへの参加生徒数 (2) 生徒の身について能力を評価する指標の活用 (1) (2) YCKプロジェクト報告会		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
【学校設定教科】地域課題探究、国際理解探究、地域プロジェクト学習(130名) 【課外活動】12活動(542名) 【総合的な探究の時間】1、2年生(214名) 【各教科・科目の授業】英語会話：保育園との交流 家庭基礎：福祉人材教育(145名) 【広報】さるばば倶楽部：学校紹介記事、新聞折り込み：飛騨市高校紹介(3名) など30の活動に述べ1471人が参加	①YCKプロジェクトに生徒が参加して適切な振り返りができているか ②生徒の課題解決能力、主体性及び共同して学ぶ態度が育っているか ③ポートフォリオ等を進路実現に活用できているか	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
12 成果・課題	○学校と地域が協働してYCKプロジェクトを組織的推進できた。 ○キャリアプランナーのおかげで地域と協働して充実した活動ができた。 ○振り返りシートを充実させ、自らの振り返りだけでなく発信する視点も考えさせることができた。 ▲探究活動に取り組むプロセスを学ぶ機会が少なかった。 ▲進路決定時に活用できるキャリアパスポートが十分でない。		総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案	・学年や分掌、各教科の連携をより深めて様々な活動を通して「見つける力」「解決する力」「伝える力」を育てる。 ・生徒が身につけた力、地域で活動した経験から学んだことを自らのキャリアに生かせるようサポートする。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月7日

【意見・要望・評価等】
・探究学習への情熱が少し不足している。課題設定方法を変え、地域を何とかしたいという思いを持たせることが重要。 ・YCKプロジェクトが生徒のキャリアにもっと生かされるとよい。活動を通して生徒がキャリアを考えられるとよい。 ○来年度は上記の意見を元に、探究における課題設定の方法を変更し、生徒が情熱をもって探究活動に取り組めるようにする。また、その探究活動を自分のキャリアに生かせるように模索する。